米倉教公の週間為替市場見通し

11/21 日週号

ドル/円予想レンジ　108.50 - 112.00 円

『日米の休場を控えたポジション調整に注意！』

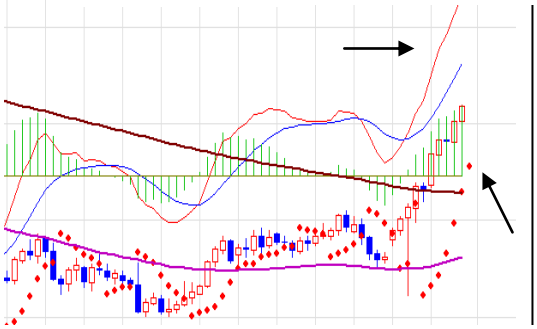
■今週の市場動向：ドル/円は日米金利差拡大でドル高継続

今週のドル/円の週足では、陽の丸坊主と非常に強い引けとなった。週開けは、日 7-9 月期 GDP が市場予想を上回りリスクオンから円売りが強まった。バリアオプションが観測されていた 108.00 円を上抜けるとストップロスを巻き込んだ。15 日は、利食い売りから 107.73 円まで下げる場面もあったが、良好な米経済指標を受け 109.33 円まで上値を伸ばした。16 日は、米長期金利の上昇につれ 109.75 円まで上昇するも、その後米長期金利の上げ幅縮小から利食い売りに押された。米 10 月 PPI などが弱い結果だったことも重しとなった。17 日は、朝方一旦ドルは失速したが、日銀が初の『指値オペ』を通知すると反発した。NY 時間にイエレン FRB 議長が、年内利上げの可能性を資産したほか、米長期金利が急上昇するとドル買いが強まり、110.00 円に観測されたバリアオプションを突破した。18 日は、一時週末のポジション調整で失速したが、米長期金利が急上昇したことで 110.92 円の高値引けとなった。

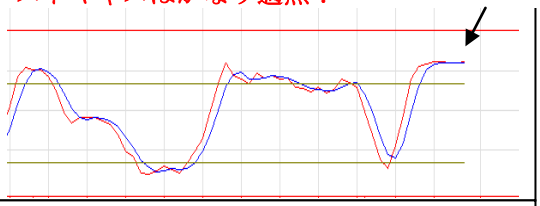
■来週の注目点：日米の休場を控えたポジション調整に注意！

来週の注目点は実需筋の動きであるが、本邦輸出勢はすでに年度末に向けたドル売りの手当ては出来ている半面、本邦輸入勢は足もとの急上昇についていけないとの指摘があることから、引き続き下値では押し目買いが入りそうだ。ただ、この 10 日間で約 10 円上昇していることから過熱警戒感があることは否定できない。そして、ドル高による新興国市場への悪影響も懸念されつつある。日本では 23 日が勤労感謝の日で休場となるほか、米国では 24 日は感謝祭で休場となり、25 日も債券・株式・商品市場は短縮取引となる。そのため、前週までのドル高に対するポジション手仕舞いや利益・損失の確定などが注視される。ちょっとした悪材料の浮上で『リスク回避の円高仕掛け』が活発化することも多いので注意が必要だ。下値目途は 16 日高値の 109.75 円や 15 日高値の 109.33 円、17 日安値の 108.55 円が目途となる。上値では、5 月 30 日の 111.45 円、4 月 25 日高値 111.91 円が目途となる。

ドル/円：日足　終値：101.92 円



ストキャスはかなり過熱！



★今週の気になる出来事

本邦機関投資家は日銀がマイナス金利を導入した後、国内債券から外国債券に運用を相当量進めている。流動性や格付けから一番買いやすいのが米国債であるが、このところの急ピッチの米国債売り（金利は上昇）で相当な含み損を抱えている可能性が高い。大手金融機関ならば、色々とヘッジしながら運用していると思われるが、中小金融機関ではヘッジしていないところもあるだろう。為替が円安となっていると言っても、52 週線では約 1.3%の含み益に対して、米債券は約 29.0%の含み損を抱えている計算になる。

■テクニカル的な見解：ストキャスティクス・スローではかなりの過熱感が

シカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高は、前週からさらに減少し+31,956 から+20,676 と 6 月来で最小。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、10 日に売りから買いに転換し継続。19 日の SAR は 107.80 円とかなり下方に位置していることから、暫くは買い継続。MACD（パラメータ：12、26、9）では、かい離を拡大してゴールデン・クロスが継続。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K：97.37、%D：96.73 とかなり過熱感出てきた。一方で、200 日線（茶線）を上抜けしたばかりなので上昇基調は継続しやすい。下落があっても 106.43 円でサポートしそう。また 75 日線（紫線）が上値抵抗ラインとなっていたことで、今度は下値支持ラインとなる可能性が高く、大きな下落基調となった場合でも 103.10 円近辺では下げ止まる可能性が高い。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

商号：株式会社フジトミ
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号
商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22･12･22 商第 6 号
加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円（税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円（税込)、コンサルタント取引（対面取引）コース及びコンサルタント取引（対面取引）オンライン併用コースが片道 1,080 円（税込）です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。
【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】
金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。
計算式：為替証拠金基準額＝取引単位（元本金額）×4%×（5 取引日の為替清算価格平均値）

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。
【価格変動リスク】
くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があり、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】
くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大２５倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】
当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】
当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】
税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】
取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する２国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や受払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】
くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】
クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】
相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。
ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】
当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではございません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】
取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第３７条の６の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。